

日本の成長見通し引き上げ

IMFの最新世界経済見通し

2013年は1、6%成長見通し

	2013年	14年
世界	3.3(▼0.2)	4.0(0.0)
先進国	1.2(▼0.1)	2.2(0.1)
米国	1.9(▼0.2)	3.0(▼0.1)
ユーロ圏	▼0.3(▼0.2)	1.1(0.0)
日本	1.6(0.4)	1.4(0.7)
新興・途上国	5.3(▼0.2)	5.7(▼0.1)
中国	8.0(▼0.1)	8.2(▼0.3)

実質国内総生産(GDP)の前年比成長率。単位は%。かつこ内は今年1月の前回発表からの増減幅。▼はマイナスまたは減少

成長見通し引き上げ

IMF アベノミクス見込む

国際通貨基金(IMF)は16日、最新の世界経済見通しを発表した。2013年と14年の日本の成長見通しをそれぞれ引き上げた。安倍晋三政権による財政・金融政策の効果で、2年連続で1%台半ばの成長になると見込んだ。

日本の成長見通しは13年

実質国内総生産(GDP)の前年比成長率。単位は%。かつこ内は今年1月の前回発表からの増減幅。▼はマイナスまたは減少

IMFの経済成長見通し

	2013年	14年
世界	3.3(▼0.2)	4.0(0.0)
先進国	1.2(▼0.1)	2.2(0.1)
米国	1.9(▼0.2)	3.0(▼0.1)
ユーロ圏	▼0.3(▼0.2)	1.1(0.0)
日本	1.6(0.4)	1.4(0.7)
新興・途上国	5.3(▼0.2)	5.7(▼0.1)
中国	8.0(▼0.1)	8.2(▼0.3)

が前年比で1・6%増、14年は同1・4%増。今年1月の前回発表からそれぞれ0・4%幅、0・7%幅引き上げた。大幅な財政出動による景気刺激や国外の景気回復、金融緩和が支えになっているという。

ブランチャール調査局長は会見で、日本銀行の緩和策について「(日本は)良いインフレと金利低下を促す必要があった。適切だと思っている」と評価した。

一方で、最新の財政監視報告では、債務を中期的に引き下げていく明確な計画が欠けていることを「重大な懸念」と指摘した。

世界全体の成長見通しは、13年を0・2%幅引き下げて3・3%に、14年はほぼ同じ4・0%とした。

(ワシントン＝山川一基)